編集企画・発行
沖　縄　防　衛　局
総務部報道室
〒900-8574
那覇市前島３-２５-１
TEL（098）868-0174
http://www.mod.go.jp/rdb/okinawa/

シーサー（切り絵）

施設補償第１課　川平　俊行　作

就任のあいさつ

真部　朗

1月17日付けで沖縄防衛局長を拝命した真部朗です。初めての沖縄勤務となります。どうぞよろしくお願いします。

これまで沖縄との関わりは、内閣府の沖縄担当部局で主に普天間飛行場の移設・返還問題を担当したこと、旧防衛施設庁で駐留軍等労働者の労務管理の仕事に携わったこと等がありましたが、仕事以外では沖縄との関わりがほとんどなかったので、今回の異動は私にとって非常に良い機会であり、いろいろな面で沖縄への理解を深めていきたいと思っています。

沖縄防衛局の最大の課題は、在日米軍の再編として進めている普天間飛行場の移設・返還問題だと思っています。これは沖縄防衛局あるいは防衛省を越えた政府全体の問題であり、日米で合意された建設計画について、沖縄県をはじめ地元の理解をしっかり得ながら実現に努めたいと思っています。その他、嘉手納飛行場以南の土地の返還などの問題、また、再編以外でも基地に由来する数々の課題があります。その一つひとつの課題を丁寧に解決していくことが大事であり、その積み重ねが我が国の防衛を全うすることにつながっていくものと思っています。

私は、かつての上司の言葉として、「自分は何でも分かるほど賢くない。他方、何でも分かっていると思うほど馬鹿でもない」ということを心がけたいと思っており、いわば防衛行政の最前線にある沖縄防衛局長として、当局が抱えている数々の課題について、地元の皆様のお話に十二分に耳を傾け、真剣に取り組んでいきたいと考えております。

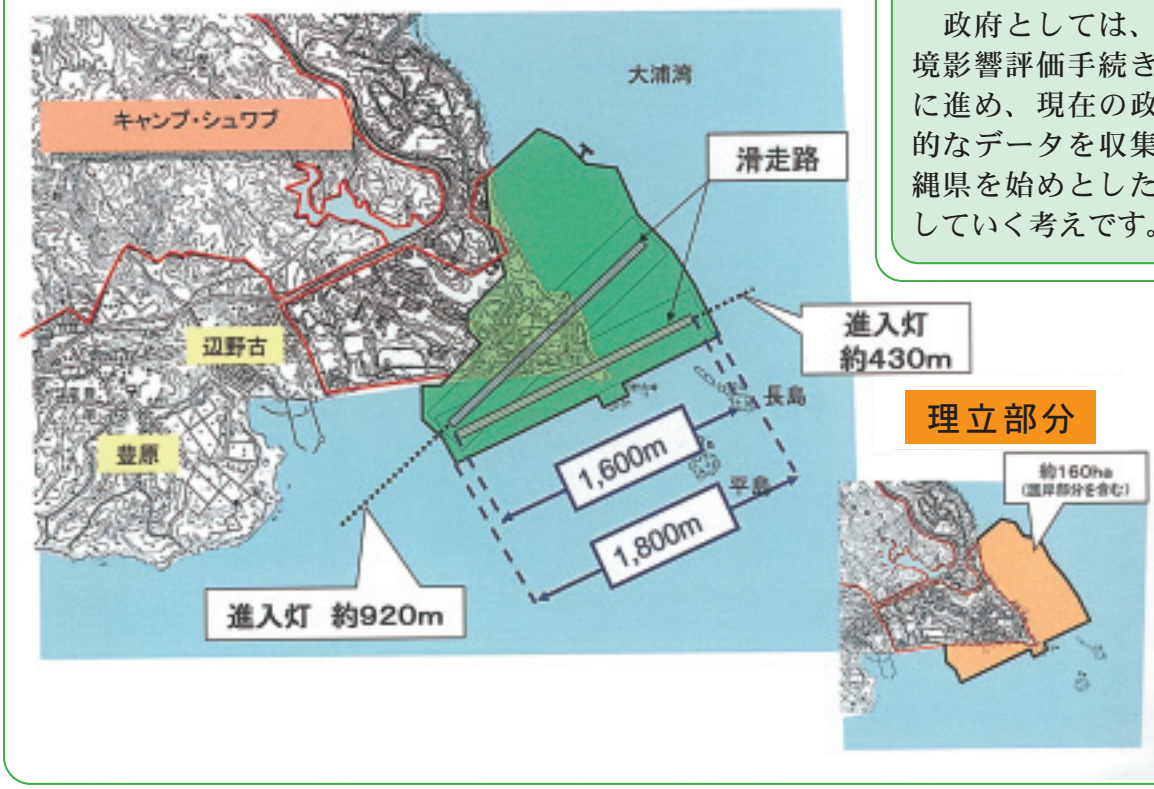
（局長）

の建設計画について

昨年12月に開催された「普天間飛行場の移設に係る措置に関する協議会（第５回）」において、防衛大臣から以下の資料で普天間飛行場代替施設の日米合意の内容を説明しました。

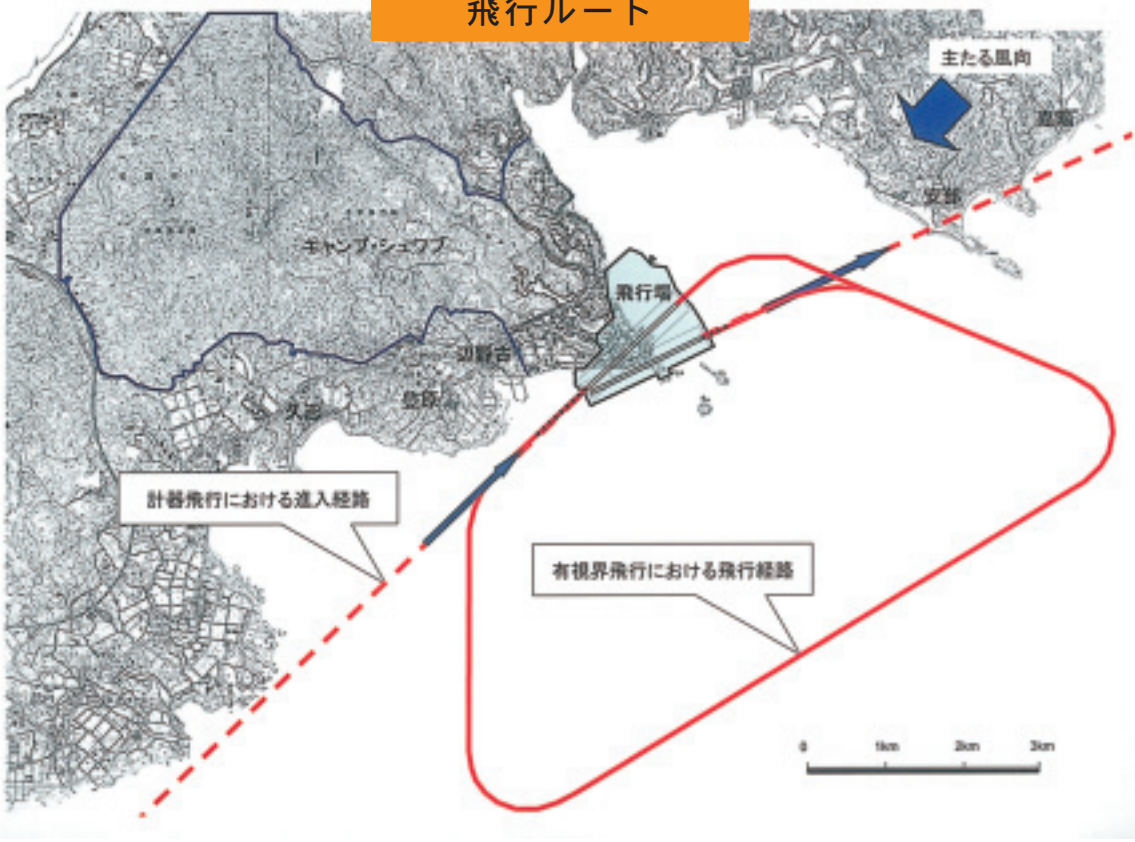
政府としては、現在進めている環境影響評価手続きをできるだけ早期に進め、現在の政府案にかかる客観的なデータを収集し、その結果を沖縄県を始めとした地元に丁寧に説明していく考えです。

飛行場施設の位置・形状



●Ｖ字型に配置される２本の滑走路長はそれぞれ１，６００ｍで、各々両端に１００ｍのオーバーランを設け、滑走路のある部分の施設の長さは護岸を除いて１，８００ｍです。

飛行ルート



●飛行ルートについては、名護市長、宜野座村長の要請を踏まえ、Ｌ字型からＶ字型に変更し平成18年４月７日に基本合意書を締結した上で米側と合意したところであり、今も基本的に住宅地上空の飛行を回避する方向で対応するとの認識は変わりません。ただし、緊急時等や訓練の形態等によっては例外的に飛行することはあります。

４面に続く

普天間飛行場代替施設

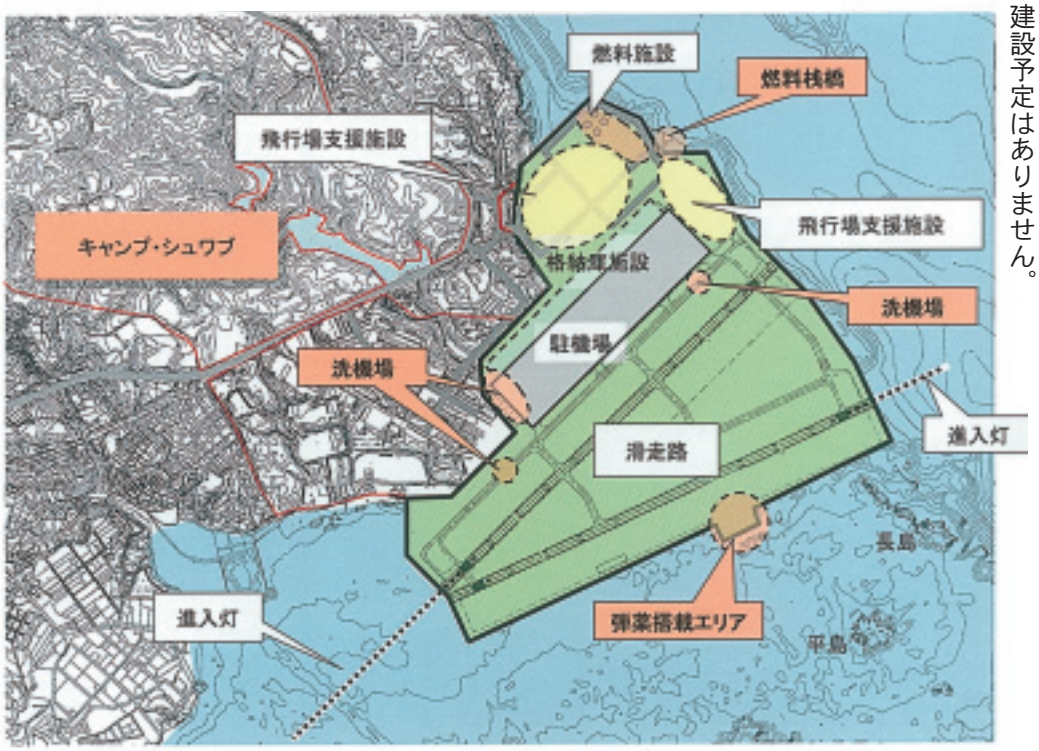
●滑走路の他に駐機場、格納庫施設、飛行場支援施設、燃料施設、燃料桟橋、弾薬搭載エリア、洗機場などを設置します。

●弾薬搭載エリアは、辺野古集落から離れている等の条件が良いため、辺野古崎付近の突起スペースに設けます。

●現在の普天間飛行場では、嘉手納飛行場で弾薬搭載作業を行っていますが、辺野古崎への移設に伴いこの作業を嘉手納飛行場で行えば運用上の支障を来すため、弾薬搭載場所を代替施設内に設けます。

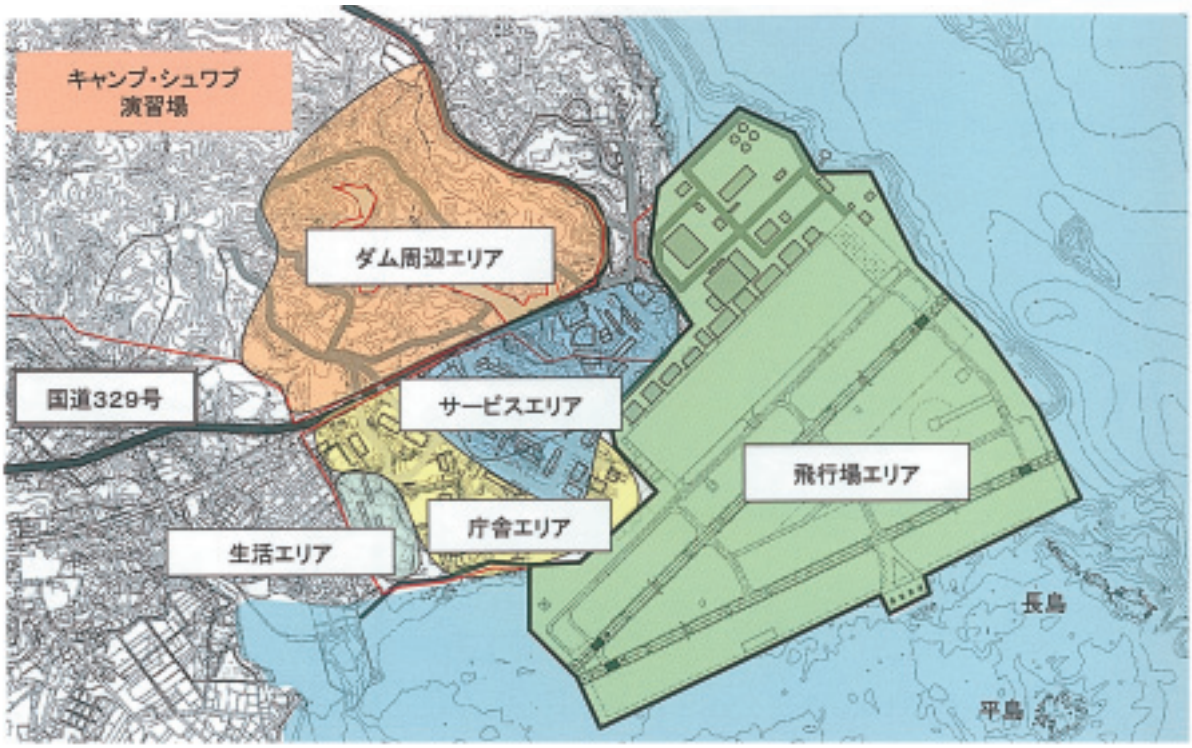
●大浦湾側には、航空機の燃料補給のための桟橋を建設する予定ですが、兵員や物資の恒常的な積み卸しを機能とするようないわゆる軍港の建設予定はありません。

飛行場施設の配置計画

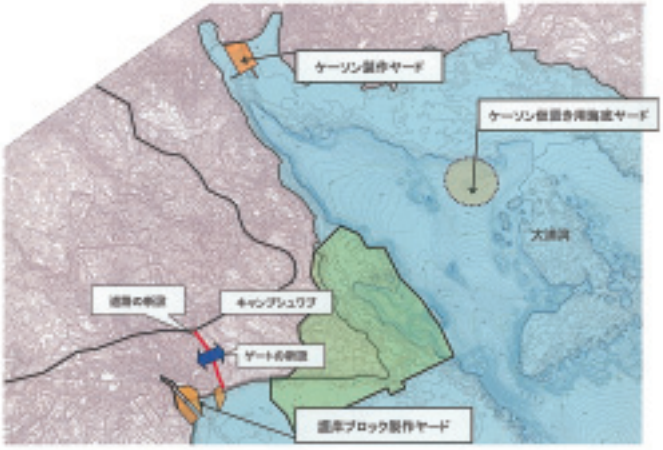


●飛行場施設とは別に、キャンプ・シュワブ内の隊舎等施設を再配置します。国道３２９号の南側は、庁舎エリア、生活エリア、サービスエリアにゾーニングします。北側の詳細は今後検討します。

配　置　計　画

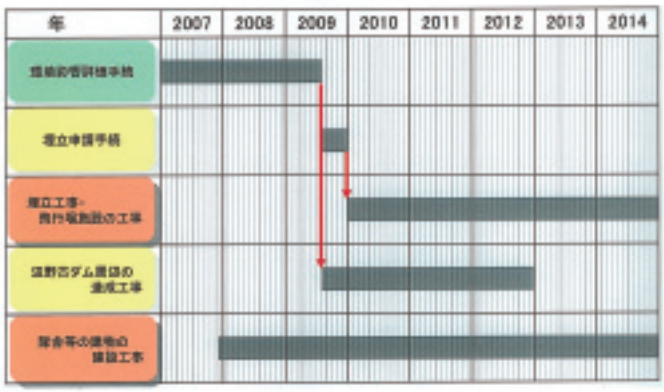


作業ヤード等



●地元の要望を踏まえ新たに道路とゲートも設置する方向で対応します。

概略工程表



注：スケジュールは、概略の見積りであり、今後変更があり得る。

●普天間飛行場代替施設の建設は、2014年までの完成が目標とされています。

ゆんたくサロン

私の初釣り

報道室長　畠　憲昭

友人は私のことを、還暦を過ぎたというのに元気印のオヤジだと言う。お前の健康の源は何だと問われ、何だろうと考えるに思い浮かべることは、クヨクヨしない性格と大海原でマグロ相手に格闘しながら全身にオゾンを浴びることかなと思った。ご多分に漏れず私も肥満県沖縄の呼称に寄与している身であるが、幸いなことに大病も患わずにこれたのも、釣り上げたお魚ちゃん達を「猫またぎ」と言われるくらいに食べ尽くしたお陰とお魚ちゃんに感謝する次第である。

さて、今年も正月そっちのけで初釣りを楽しんだ。夜も明けやらぬ午前6時に与根を出港、途中糸満漁協で氷３００キロを積み、私を待っていてくれるであろう大型マグロが回遊する沖縄県所有のパヤオ（ウキ魚礁）ニライ８号へ白波を蹴立てつつ疾走する船上で、取らぬ狸の皮算用が常だ。

目的のパヤオは、喜屋武岬南西沖の黒潮流れる真っ只中、そこは回遊魚の通り道でカジキ、マグロ、カツオ、シイラなど大型魚が群れる好漁場である。

午前7時半、漁場に着くと同時に船長の合図で、米糠を練ったコマセと刺し餌のムロアジを仕掛け袋に詰め、棚（その日の棚は１８０ｍから２００ｍの深海）まで一気に下ろす。しゃくりを入れ、当たりを待つ。反応がない。釣友達は次々と１～２キロクラスのシビマグロを釣り上げるも、大物狙いの私の竿はピクともしない。待てば海路の日和ありと余裕があるような顔をしていても内心焦る気持ちが強くなる。約２時間後、来た来たァ～、待望の当たりだ。竿先がしなる。大型電動リールのスイッチオン。高速巻き取りで上がってきたのが約８キロのキハダマグロ。さぁ～、これからが追い込みだ。が、その後食いがバッタリ止まったため場所移動。今度は糸満漁協所有の16番パヤオ。ここは昨年末に友人が40キロのキハダをしとめた場所だ。期待しつつ仕掛けを投じるも、大物とおぼしき獲物もなく、せいぜい5キロ前後だ。

今日も駄目かと諦めかけたそのとき、50ポンドの竿先が海中へ突っ込むと同時に道糸がダダーと出て行く。大物だ！　心が騒ぐ！　釣友全員が竿を上げ、私とキハダとの遣り取りを見守っている。電動リールが唸りを上げ巻き上げるが、マグロの引きにモーターが止まる。再びスイッチを押すも、またまた止まる。一進一退を繰り返しつつも、やがて水面に50キロ超級の魚影が見えた。渾身の力を振り絞ってハリスをたぐり寄せた。そこで船長が銛を打ち込む。ヤッターと思った瞬間、マグロが最後のあがきで潜りだした途端、ガ～ンと竿を叩く音とともに80号のハリスがプッツンと切れた。銛が浅かったのか、取り逃がした海中を眺めしばしの放心状態。皆からの「惜しかったなぁ～」との慰めに、いゃ～と悔しさを微塵も見せない態度をとるが、心の中では歯ぎしりをし地団駄を踏んでいる自分と両手に残る痛みだけが残った。ざんね～ん。

負け惜しみながら、それでもキハダマグロの5キロ～8キロクラスが5本、2キロ前後が10本あり、何とか交際用は確保できたのがせめてもの救いの初釣りだった。